

市民ぐるみで進める京都市の教育改革

学校改革

開かれた学校づくり

生涯学習

学力向上

学習確認プログラム

学力定着調査

少人数教育・授業の充実

京都出版指導計画
30人学級・少人数教育
専科教育／習熟度別指導
ティームティーチング
小学校での教科担任制
205日以上の年間授業日数

教職員の指導力向上

「京都教師塾」の創設
教職員研修の充実
教員評価システム
カリキュラム開発支援センター
教育実践功績表彰
スーパーティーチャー制度

総合的な学習の時間

ICTの活用

特色ある学校づくり

学校裁量の拡大

みやこ学校創生事業
二期制及び長期休業期間の弾力化
校種間連携／小中一貫教育特区
教員版FA制／教員公募

障害のある児童・生徒の教育の充実

全国初の総合養護学校／育成学級の新増設
全総合養護学校での総合育成支援教育相談センターの充実
総合養護学校給食の充実（クックチル方式）
高等部職業学科／デュアルシステムの研究

高校教育の充実

洛陽・伏見工業高校改革／音楽高校改革／塔南高校教育みらい科創設／紫野高校Ⅱ類改編

児童・生徒の健全育成

心の居場所づくり

こども相談センターバトナ運営
スクールカウンセラーの中学校全校配置
洛風中学校・洛友中学校

学校敷地内の全面禁煙

学校安全対策の推進

安心安全情報等の発信機能をもつPTA・おやじの会
ホームページの開設／緊急連絡インターホンの整備

体力向上等

小学校部活動／こども体育館
休日地域児童スポーツクラブ
中学校合同部活動
中学校給食の全校実施
エイズ教育の推進／フッ化物洗口

人権教育の推進

男女平等教育／総合育成支援教育／同和教育／外国人教育

教育環境の充実

学校冷房化／校内LAN整備／PFI手法を導入した新校舎の建設（音楽高校）／快適トイレの整備／防犯カメラ全校設置／花と緑のグリーンベルト事業／学校施設の高度活用（児童館設置等）

開かれた学校づくり説明責任と市民参加

学校運営協議会／学校評議員制度／外部評価を含む「学校評価システム」／自由参観・参観週間の拡充
生き方探究・チャレンジ体験推進事業／学校だよりの地域回覧・掲示／全校でのホームページ開設

みやこ子ども土曜塾

人づくり21世紀委員会

ふれあい活動推進事業
ふれあいキッズ

家庭の教育力の向上・子育て支援

家庭の教育力向上サポートチーム
子育てサポーター／おやじの会
子育て語り合いサロン
PTAフェスティバル／家庭学習の手引き

学校を拠点とした地域コミュニティの活性化

学校ふれあいパーク・学校ふれあいサロン事業／学校コミュニティプラザ事業

生涯学習新世紀プランの推進

京都市生涯学習推進月間（11月）の策定／インターネット京（みやこ）塾
生涯学習情報メールサービス「まなびの新着情報便」

多彩な生涯学習事業の推進

生涯学習総合センター／学校歴史博物館／京都国際マンガミュージアムの設立

図書館サービスの向上

地域図書館の夜間・祝日開館の拡充／右京中央図書館（仮称）の開館
インターネットによる全館の蔵書情報の発信など

ボランティアの皆様とともに推進

学校教育活動支援ボランティア

学生ボランティア学校サポート事業

学校図書館ボランティア

日本語指導ボランティア

総合育成支援教育ボランティア

IT教育ボランティア

科学センターボランティア

市民会議など市民参加で推進

教育改革推進会議

教育実践功績表彰選考委員会

指導力判定委員会

21世紀型教育コンテンツ開発委員会

スーパーハイスクール運営指導委員会

子どもたちのインターネット等の「活用指針」検討プロジェクト

総合育成支援教育の今後のあり方検討プロジェクト

巣立ちのネットWORK

京都市マライゼーションへの道推進会議

科学系博物館等連絡協議会

不登校児童・生徒適応支援連携協議会

地域生徒指導連絡協議会

中学校部活動検討委員会

子ども安全会議

地産地消（知産知消）推進プロジェクト会議

京都浪漫債※

※西京高校の改築や小中学校の耐震補強など教育環境の充実に向けた京都市初の市民参加型公募債

学校運営協議会に関する専門委員会

NPO「芝生スクール京都」との連携による校庭芝生化

グリーンベルトボランティア

少年合唱団を育む会

コミュニティプラザ深草図書館運営ボランティア

生涯学習コーディネーター
博物館ふれあいボランティア
サイエンスボランティア

ふれあいパーク実行委員会
ふれあいサロン管理運営委員会
コミュニティプラザ管理運営委員会

社会教育委員会議（委員の市民公募）

生涯学習市民フォーラム

京都市内博物館施設連絡協議会

視聴覚センター運営委員会（委員の市民公募）

図書館協議会（委員の市民公募）

図書館ボランティア

若者文化の発信

はたちプロジェクト
KYOTO青年元気まつり（大風流）

学校・家庭・地域で育む京都の子ども 京都市の教育改革

京都市では、学校・家庭・地域が相互に高めあい、企業や大学、NPOなど、様々な機関と連携し、「社会総がかり」で子どもを育てています。

安心して学べる学校づくり、地域ぐるみで進める豊かな体験活動、全ての教育活動を通して養う道徳的实践力など、様々な取組を市民の皆様とともに進めています。

皆様のご理解とさらなるご参画をお願いいたします。

京都市教育改革推進会議・京都市教育委員会

京都市教育委員会学校指導課

<http://www.edu.city.kyoto.jp/kyoikukeikaku/>

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上 TEL：075-222-3815 FAX：075-213-5229

平成19年4月発行

「市民とともに！」教育改革・生涯学習

～いま市民ぐるみ・地域ぐるみの取組

が大きな成果をあげています～

美しい地球を未来に ～環境教育の推進～

京都議定書の発効を記念し、「子ども環境フォーラム」を開催し、「子ども環境宣言」を全国に発信。その後、全ての学校・幼稚園で独自の「環境宣言」を策定し、節電・節水、リサイクル等の取組を進め、多くの小・中学校が、KES学校版「環境にやさしい学校」の認定を受けています。



「子ども環境宣言」

もっと読書を楽しもう！ ～「本好きな子ども」の育成～

子どもたちは、本が大好き。「子ども読書振興市民会議」からのアピールを受け、本との出会いや素晴らしさ、楽しさに気づく取組を進めています。本市独自の「読書ノート」を活用した「めざせ100冊！読書マラソン」運動の実施や保護者・地域の方を対象とした「学校図書館ボランティア養成講座」による読書環境の整備・充実など、市立図書館との連携を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの読書活動の充実を図っています。



熱心に本を読む子どもたち

「なぜ?」「どうして?」を大切に ～「理科・科学好きな子ども」の育成～

「21世紀の『理科を考える京都市民会議』」の提言を受け、子どもの興味・関心を大切にする教育風土やそれを支援する大人のネットワークを「産・学・公」連携して築き、子どもと一緒に学び続ける街づくりを目指しています。



青少年科学センターでの学習

京から実践！ 「しなやかな道德教育」

- 「道德教育振興市民会議」での3年間にわたる議論、2万人を超える市民の意見を集約し、保護者・地域とともに学ぶ道德の授業や学校での「道德デー」「道德ウィーク」の設定など、学校・家庭・地域が一体で実践し、子どもの道德的実践力を育みます。
- 「『はっきり』教えよう、伝えよう!」「『しっかり』見せよう、示そう!」「『じっくり』語り合おう、考えよう!」「『たっぷり』体験しよう、共に活動しよう!」をキーワードに、大人が子どもを守るべきものをきちんと教え伝えるとともに、子どもと共に考え育んでいく「しなやかな道德教育」を実践しています。
- 子どもの感性を磨き、感動・感謝できる体験が大切です。子ども自ら進めるトイレ清掃もその一つです。「京都掃除に学ぶ便きょう会」は、毎月第2土曜日の早朝に子どもたち、地域・保護者の方々と共に学校のトイレ掃除を行っています。掃除後の子どもたちの発表は感動的です。



子ども自ら進めるトイレ清掃

実生活に生きる教育 ～生き方探究・キャリア教育～

- 世界最大の経済教育団体「ジュニア・アチーブメント日本」との共催により、小・中学生が社会や経済の仕組みを体験学習する「スチューデントシティ」「ファイナンスパーク」を「京都学びの街 生き方探究館」に開設しました。
- 更に、企業、大学、洛陽・伏見工業高校が連携し、小・中学生にモノ作りの楽しさと可能性を伝える「京都こどもモノ作り塾」(仮称)を平成19年度に開設します。

銀行・商店・区役所等からなる「スチューデント・シティ」で社会や経済のしくみを学ぶ小学生



「ファイナンスパーク」で税金や保険・食費等を試算し、生活設計を学ぶ中学生

大人として今行動を！ ～子どもを共に育む「京都市民憲章」～

「子どもたちのために大人として何をすべきか、共に考え行動を」を合言葉に教育・医療・福祉・経済・マスコミ等96団体が参画する「人づくり21世紀委員会」からの提言を受け、市民代表の方々の意見を頂き、「子どもを共に育む京都市民憲章」を19年2月に制定しました。市会でも推進決議がなされるなど、憲章制定を契機として、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で憲章を踏まえ、全ての子どもを健やかに育む実践行動を推進します。

行動理念

- わたくしたちは、
- 一、子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
 - 一、子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
 - 一、子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
 - 一、子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
 - 一、子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
 - 一、子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

地域の子どもは地域で守る ～2万人の子ども見守り隊～

- 全小学校区で約2万人の方々により、ボランティアの子ども見守り隊として、子どもたちの安全確保の活動が展開されています。
- 全ての小学校で、防犯の専門家や警察官OB等を、地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)として委嘱し、登下校時の巡回などにあたっていただいています。
- 安心安全情報などを保護者の携帯電話やパソコンメールへの一斉配信ができる機能を備えたPTA・「おやじの会」のホームページを全小学校・幼稚園に開設します。



地域ぐるみで子どもの安全を守る

地域の熱い思い ～教育環境を守る学校統合～

児童・生徒数が減少していく地域では、子どもの教育環境を改善するため、地域の方々が全ての子どものために断腸の思いで決断され、地域主導の学校統合が進んでいます。平成18年度までに51校園が16校園に統合されています。

さらに19年4月には、下京区の5つの中学校を統合した下京中学校、左京区花背峠以北の6小中学校を統合した小中一貫校の花背小中学校が開校しました。下京中学校では1日7時間授業、花背小中学校では小中一貫教育など、特色ある教育が展開されます。



5校が統合し開校した下京中学校

“まち全体を学びと育ちの場に” ～みやこ子ども土曜塾～

土曜日をはじめ日祝日や夏休みなどに、子どもや親子を対象として、伝統文化・芸能、芸術体験、野外活動、スポーツ、調理、パソコン、英会話など、6000にも及ぶ多彩な事業が地域や団体、企業、大学、博物館、神社仏閣、NPOなど幅広い市民の皆様により展開されており、18年8月までにのべ12万人の子どもたちが参加しました。



祇園祭でのちまき売りを体験

子どもたちに よりよい教育環境を

- 小・中学校の全普通教室の冷房化
政令指定都市で初めて小・中学校の全普通教室の冷房化を完了。小学校においては、民間業者のアイデアや技術力を最大限に活用するPFI手法を全国に先駆けて導入し、設置期間の大幅な短縮とコスト削減を実施しました。
- 環境に優しい学校施設
太陽光発電や風力発電、壁面・屋上緑化、節水機器の設置、校庭の芝生化を進めるなど、環境に優しい学校施設を整備し、その維持・管理に地域の方々やNPOにご協力いただいています。また、これらの施設を子どもの環境教育に生かしています。



校舎の壁面緑化

子どものためにできること

小さなことから始めませんか？

はぐくみます 「確かな学力」 「豊かな心」 「健やかな体」



一人一人の子どもを伸ばす授業の充実

30人学級・35人学級の導入

本市の独自予算で教員を採用し、小学校1・2年生での35人学級に続き、19年度からは、全国で初めて中学校3年生で30人学級を実施します。小学校低学年できめ細かな指導を行い、中学校3年生では、進路指導のさらなる充実を視野に入れ指導体制の充実を図ります。



協力指導の充実

全ての小学校で、中学校免許を持つ教員が音楽・図工・体育等を指導する専科教育を行うとともに、小学校での教科担任制を進めています。また、「習熟の程度に応じた指導」や1つのクラスを2人の先生で教える「チームティーチング(T・T)」の充実を図っています。

学力向上に向けて

年間205日以上の授業日数の確保

全市立学校の冷房化を活用した夏休みの短縮に加え、春休みも短縮し、全国最多となる年間205日以上の授業日数を確保し授業時間数が増加しています。さらに、長期休業期間中の補修等も積極的に行うことにより、国の標準授業時数の10%増に相当する学習時間を確保します。(暦上の平均授業日数は198日)



自学自習を支援する「学習確認プログラム」

全ての中学校で共通の確認テストを3年間で7回実施し、分析結果の個人データを基に生徒本人が自らの学習状況と学べき課題を全市との比較も含めて詳細に把握します。また、復習教材を補習や家庭学習で活用し、学力のステップアップを目指します。

継続的かつ詳細な「学力定着調査」

本市では、戦後一貫して教育委員会と教員の自主的な研究団体である教育研究会の共催で、小中学校の全児童・生徒を対象に「学力定着調査」を実施し、学力の到達状況や指導上の課題の把握・分析、授業改善に活用しています。

京都スタンダードの作成

全国で唯一、国の学習指導要領を超えた発展的な内容を全ての子どもに指導することを盛り込んだ3,000ページにも及ぶ詳細な「指導計画」(京都スタンダード)や補充・発展学習教材を本市独自に作成し、小・中学校の授業や課外学習において積極的に活用しています。

小中一貫・小中連携の推進

- 大宅・陶化・京都御池中学校ブロックでは、小学校での「英語科」の設置や、算数・数学のカリキュラムの弾力化など、小中一貫教育を進めています。
- 19年度には、花背峠以北の小中学校6校を統合し、市内初の施設一体型小中一貫校を開校します。全国の山間へき地小規模校のモデル校として、新たな学校の形や教育のあり方を京都から発信していきます。
- 「小中連携主任」を全校に設置し、全ての学校で特色のある小中連携の取組を推進しています。

「わかる授業」の実践に向けた指導力の向上

- 平日夜9時まで、土曜日も開館している総合教育センターでは、年間延べ35,000人の教職員が指導力の向上を目指して熱心に研修に取り組んでいます。
- 全国の先駆けとなった「カリキュラム開発支援センター」には、約1万点の学習指導案をはじめ、6万点に上る教育関係資料を備え、多くの教職員が熱心に研究活動を行っています。



充実した資料で熱心に研究する教員ら

「英語が話せる子ども」の育成

- 全国に先駆けて、全ての小学校で外国語指導助手(ALT)を活用した英語活動を展開しています。
- 英語科の全教員がTOEFLを受検し、指導力の向上を図っています。



ALTによる小学校での英語活動

市立高校改革

生徒の進路保障に全力を注ぐ市立高校

- 「探究科」の開設で新たな教育活動を展開した堀川高校や、産業界・学術研究機関との連携のもと、人材育成を目指す西京高校「エンタープライジング科」では、生徒が自らの進路を着実に実現し、進学実績が飛躍的に向上しました。
- 市立高校普通科系5校(西京・堀川・日吉ヶ丘・紫野・塔南)の4年制大学現役合格率は74.4%(18年3月卒業生)に達し、

希望進路の実現が着実に進んでいます。

- 学校斡旋による就職は、全教職員の企業訪問・求人開拓と生徒自身の努力の結果、全ての市立高校で100%を達成しています。

文武両道を推進する市立高校

市立高校では、体育系・文化系ともに多くの部が熱心に活動し、全国大会にも出場するなど、輝かしい実績を上げています。

「ものづくり都市・京都」の未来を切り拓く若者の育成

創造力と技術力で未来を切り拓いていく若者を育成するため、洛陽工業高校に「創造技術科」、伏見工業高校に「システム工学科」を新たに設置し、産業界・大学との連携のもと、ものづくりを通した豊かな人間教育を目指します。

(文部科学省「目指せスペシャリスト」研究開発指定校として産業界・大学と連携・協働し、次代を担う若者の育成を図ります。)

障害のある子どもの教育の充実

- 全国初の総合制・地域制支援学校
16年4月、養護学校7校を全国初の総合制養護学校として開校。障害種別の枠を超え、一人一人の教育的ニーズに対応したきめ細かい教育を進めています。
- 企業と連携した「総合支援学校版デュアルシステム」
白河・鳴滝総合支援学校高等部の職業学科では、生徒一人一人の就職希望の実現を目指し、長期的・計画的な企業実習を行い、企業が求める人材を育成する新しい職業教育を推進しています。第一期卒業生は就職100%を達成しました。
- LD等の子どものための教育支援
全ての小・中学校で、校内の支援体制の充実を図るとともに、総合支援学校内の育支援センターに、「学校サポートチーム」を設置。また、LD等の子どもたちを専門的に指導する非常勤講師の配置や通級指導教室を設置しています。
※総合養護学校は平成19年4月から「総合支援学校」に名称が変わりました。



企業実習に励む職業学科の生徒

児童・生徒の健全育成

放課後子ども教室推進事業

子どもの自主的な「学びの場」と安全で健やかな居場所を充実するため、平成19年度から、小学校で地域ボランティアや学校運営協議会、学生等の参画を得て、図書室や教室での読書や自主学習、音楽室等を活用した行事等を実施します。

いじめ問題への的確・迅速な対応

- 「いじめ」対策プロジェクトチームの設置
学校における「いじめ」に関して、教育委員会に「いじめ」対策プロジェクトチームを設置し、学校と一体となって直ちに対応します。
- いじめ相談ホットラインの開設
いじめに関する悩みの専用電話を開設しています。
075-351-7834(24時間受付)
- スクールカウンセラーの配置
全ての中学校・高等学校で臨床心理士の資格をもつスクールカウンセラーが生徒の心のケアを行っています。

子どもたちの心の「居場所づくり」

- 全国初の総合専門機関「こども相談センターパトナ」
不登校など、子どもたちや保護者の不安や悩みの相談に応じ、効果的な支援を行う専門機関。約60名のカウンセラー・スタッフが、夜間、土・日曜日にも相談を行っています。(年間利用2万人)
- 不登校生徒の学びと育ちの場
こども相談センターパトナ内に、不登校生徒の学習支援のための「洛風中学校」を開校し、一人一人の生徒の状況に応じた学習を実施しています。19年4月には、不登校生徒と二部学級の生徒が共に学び、世代や国籍を超えて交流しながら、学校の楽しさや学ぶ喜びを実感できる新しい学校、「洛友中学校」が開校しました。



こども相談センターパトナ

子どもたちの体力向上に向けたスポーツ活動の充実

- 小学校では約1,000人の地域ボランティアの協力を得て、「部活動」の充実を図っています。中学校でも、部員が少ない複数の学校による「合同部活動」や、自校にない他校の部活動に参加できる「ブロック内選択制部活動」、また、専門的な指導者を派遣する「外部コーチ派遣」を進めています。
- 子どもたちの更なる健全育成を図るため、18年4月に全国初の子ども専用体育施設「京都市子ども体育館」をオープンしました。



京都市子ども体育館での活動

食教育の充実

- 地産地消(知産知消)の推進と学校給食の充実
給食に京野菜や京都産の食材を使った献立を導入し、指導資料を作成するなど、食教育・知産知消の充実を図ります。また、小学校給食では、米飯給食の回数を増やし、日本型食生活を推進します。小学生に、パランスの取れた健康的な食生活を送ってもらえるよう中央卸売市場協会と連携し、旬の野菜や魚介類を使った「出前板さん教室」を実施しています。
- 食育カリキュラムの研究・推進
京都の老舗料亭等からなる「日本料理アカデミー」と合同で、日本料理を通した食育カリキュラムを研究・推進しています。プロの料理人の方々を講師に、味覚・食材・調理法について学び、「だし」の旨み分かる子どもの育成を目指しています。



板前さんによる食育授業

進めています 教員養成 教員の資質向上

教員養成のメッカへ ～京都教師塾の創設～

大学のまちであり教育先進都市である本市の特色を活かし、政令指定都市で初めて将来教員を志す大学生らを対象とした「京都教師塾」を創設。第1期となる平成18年度には、300名の定員を大幅に上回る応募があり、当初の定員を拡大するとともに、新たなコースを設け、約550名が入塾しました。塾生は、学校での実地研修を行うなど、本市の様々な教育実践を学ぶとともに、教員として求められる資質や実践的指導力を身に付けていきます。



教員への決意を新たにする塾生

教員への夢 ～塔南高校「教育みらい科」の創設

「教師になりたい」、そんな夢を持つ高校生のため、平成19年4月、塔南高校に全国初となる「教育みらい科」を創設します。志を持ち、知性と実践力にあふれた熱血先生になるためのカリキュラムを実践します。

教員評価システムの活用

一人一人の教員が、自らの教育実践を評価し、振り返ることにより、次年度に向けた目標を設定し、常に高い意識で教育実践を行えるよう、全教員が教員評価システムを活用しています。

熱意溢れる教員の表彰

優れた教育実践を行っている教員を激励するため、「教育実践功績表彰」を創設し、毎年500名を超える熱心な教員を表彰しています。選考には、保護者・市民の代表や経済界代表も参画し、幅広い視点で選考を行います。一方で、指導力不足や教員としての資質に問題のある教員には、子どもの教育環境を守るべく徹底した指導を行い、改善の見られない教員は教壇を去っています。

希望転任制・教員公募制

教員の意欲や能力を一層引き出すため、教員自身が転任先を選択できる希望転任制度（教員版FA制）を全国で初めて導入し、18年4月には89名の教員が自らの特技・能力・経験を生かせる学校で指導しています。また、校長が自校の教育活動に必要な人材を募集する「教員公募制」を積極的に進めています。

広がってます ボランティア のネットワーク

15,000人を超える京都ならではの 「学校支援ボランティア」

多彩な職業や分野で、豊富な知識・技能を有する方々に教育活動を支援していただいています。



地域の方にゲートボールを教わる中学生



伝統の技をじかに体験

「大学のまち・京都」で活躍する大学生

48大学との協定により、大学生が授業の指導補助や部活動の技術指導、障害のある子どものサポートなど、様々な教育活動の支援を行う「学生ボランティア」学校サポート事業や別室登校の状況にある児童・生徒の相談や学習支援を行う「学びのパートナー」など、約2000人の学生が身近なお兄さん・お姉さんとして活躍しています。



大学生のお兄さんと大縄とび



大学生による授業支援

子育てを力強くバックアップ

こどもみらい館では、500人を超える方々がボランティア登録し、「教育」「福祉」「医療」の専門家と毎日約30人のボランティアの方々が日々の子育てを支援。保育所・幼稚園、私立・公立の垣根を越えて、乳幼児の子育て相談や情報発信、各種セミナー、ボランティアの養成など、様々な事業を実施しており、年間約41万人の方々にご利用いただいています。



元気いっぱい子どもたち

強まっています 地域・家庭と学校の絆

内外に「開かれた学校づくり」の推進

子どもの学びと育ちには、学校が家庭・地域を高め、家庭・地域が学校を高める双方向の連携が重要です。学校・家庭・地域が「情報と課題意識」を共有し、行動の共有、さらには成果・評価の共有にまで高めるため、開かれた学校づくりを積極的に推進しています。

■「学校評価」の充実

全国に先駆けて外部評価を含む学校評価を全校導入した本市では、教職員による自己評価、児童生徒による評価、保護者・地域の方々による評価を計画的に実施し、評価結果や改善策を公表します。学校評価を通じて、学校・家庭・地域がそれぞれのあり方を振り返り、相互に高め合うことを目指しています。

■学校・家庭・地域の絆 ～学校運営協議会～

幅広い保護者や地域の方々に学校運営に参画していただくとともに、ボランティアによる地域の方々の学校支援を充実させ、校長を中心とした学校運営の応援団を形成する「京都方式」の学校運営協議会の設置を進めています。18年度には、全国最多の60校・園に学校運営協議会を設置し、引き続き設置校の拡大を進めていきます。

地域が学びのフィールド —「生き方探究・チャレンジ体験」—

中学生がそれぞれの興味・関心に応じて、職場体験をはじめ様々な社会体験活動に取り組み、新たな出会いや発見、感動を通して大きく成長しています。全ての中学校と総合支援学校約10,000名の生徒が、5日間に渡り、約3,300の事業所で貴重な体験をしています。



あらゆる職種で貴重な体験

行動するPTA

「わが子とともに地域の子どものために！」本市のPTAはあらゆる取組に企画段階から参画し、学校と地域を結ぶ核となる団体として積極的に行動しています。「京都市PTAフェスティバル」の参加者は2万人を超え、「人権啓発パレード」では市民の皆様へ人権意識の高揚を呼びかけるなど、子どもたちの輝く未来に向けて力強い取組を展開しています。



人権啓発パレード

家庭の教育力向上に向けて ～家庭学習の手引き～



教育の原点である家庭の教育力の向上を目指し、家庭学習の具体的な進め方やしつけのあり方などを記した「家庭学習の手引き」を発行し、全保護者に配布するとともに、PTAや地域での研修会で活用して、各家庭・地域で積極的に取り組んでいただいています。

わが子の父親から地域のおやじへ —おやじの会—

父親の積極的な子育て参加を目指し、160校を超える学校・幼稚園で「おやじの会」が発足し、子どもとのふれあいをテーマに体験活動を実施しています。また、全市的なネットワークである京都「おやじの会」連絡会では、全国的な活動も展開されており、19年2月には世界から父親の子育て参加のあり方を学ぶ「国際oyajiサミットin KYOTO」を開催し、父親のあり方への議論が深まりました。



わが子のおやじから地域のおやじへ

歴史都市・京都から学ぶ ～ジュニア日本文化検定～

京都の長年の歴史と現代にも引き継がれている文化を、知識だけでなく体験も通して学ぶ「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定（ジュニア京都検定）」を実施しています。第1回目となる「基礎コース」では、小学生や保護者、他府県からの旅行者など、約2万2千人が様々な分野の問題に挑戦しました。



学校を地域の生涯学習の拠点に

学校ふれあいパーク・学校ふれあいサロン ・学校コミュニティプラザ事業

校庭や中庭の一角に地域の方と学校が協力し、手作り子どもたちとふれあえる場を作りあげる「学校ふれあいパーク」をはじめ、学校施設を様々な生涯学習活動に利用できるよう整備しています。また、280名のボランティアに「生涯学習コーディネーター」としてこれらの施設を活用した事業に主体的に関わっていただいています。



手作りのふれあい施設